

移転開館5周年記念
花と暮らす展

Living with Flowers
—In commemoration of the fifth anniversary of the museum's relocation

2025年3月14日(金)～6月22日(日)

国立西洋美術館から特別出品

移転開館5周年記念

2025 3/14 [金] → 6/22 [日]
March 14, 2025 → June 22, 2025

Living with Flowers と

花と暮らす展

開館時間 | 午前9時30分～午後5時30分(入館は閉館の30分前まで)
休 館 日 | 月曜日(ただし3月31日、4月7日、28日、5月5日は開館)、
5月7日(水)
主 催 | 国立工芸館
Hours | 9:30～17:30 Admission until 30 minutes before closing
Closed | Mondays (except March 31, April 7, 28 and May 5), May 7
Organizer | National Crafts Museum

●キョリヤス子(京楽舎)の作者(3人)とアノニムの作者(4人)の作品(100点)
1904年 国立西洋美術館蔵 紅い花の器(木)より複製 ●日本橋区立歴史
ミュージアム(王子)蔵 1900年頃(複製)アノニム(木)より複製 ●十三代宗室名
匠門(複製) (複製)高橋屋敷(複製) 1942年(複製)エクス・アクト・フィア(複製)
●川上
実業(複製) 1945年頃(複製)エクス・アクト・フィア(複製) ●和持庵(複製) 複製
文庫) 1967年(複製)大塚幸雄(複製)

同館開館テーマ展示
本と暮らす
Living with Books - A Historical History

国立工芸館
National Crafts Museum

開館時間：午前9時30分～午後5時30分（入館は閉館の30分前まで）

休 館 日：月曜日（ただし3月31日、4月7日、28日、5月5日は開館）、5月7日(水)

観 覧 料：一般 300円 (250円) / 大学生 150円 (70円)

* ()内は20名以上の団体料金および割引料金。いずれも消費税込。

* オンラインによる事前予約もあり。

* 高校生以下および18歳未満、65歳以上、MOMATパスポート・学パスをお持ちの方、友の会・賛助会員の方、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバーパートナーは本人のみ)、キャンパスメンバーズ、文化の森おでかけパス(一般のみ)をお持ちの方、障害者手帳をお持ちの方と付添者(1名)は無料。

* 石川県立美術館・金沢21世紀美術館・石川県立歴史博物館・石川県立伝統産業工芸館(いしかわ生活工芸ミュージアム)・金沢市立中村記念美術館・金沢ふるさと偉人館の主催展覧会入場券半券を窓口で提示した方は割引料金でご鑑賞いただけます。

* 国際博物館の日(5月18日)は無料。

主 催：国立工芸館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

身の周りにある「花」の表現と、花とともにある暮らしを 工芸館所蔵作品約130点と国立西洋美術館からの特別出品作品2点でご紹介

展覧会概要

日本では春夏秋冬の四季の中で、季節ごとの花や色彩を生活に取り入れ、日々の暮らしを楽しんできました。多くの作家が身近な自然にテーマを求め、それぞれの技法で作品に表現しています。一方で、花器などの花のためのうつわも数多く制作され、花は日々の暮らしに取り入れられてきました。

本展は花をテーマに、工芸・デザイン作品に表現された花と花を活けるためのうつわを、国立工芸館の所蔵作品を中心にご紹介する展覧会です。さらに、国立西洋美術館からの特別出品として、モーリス・ドニの《花束を飾った食卓(マルト・ドニと二人の娘ベルナデット, アンヌ=マリー)》(1904年)と《ハリエニシダ》(1911年頃)の2点をご紹介します。本展でご紹介する花々は展覧会の会期中に実際に咲いているものを中心に構成しています。身近な自然と工芸・デザインの関係に改めてご注目いただき、花とともにある暮らしをお楽しみください。

* 会期中一部展示替いたします。[前期:3月14日(金)~5月6日(火)/後期:5月8日(木)~6月22日(日)]

本展のポイント

- **身近な花から工芸の魅力を再発見**
作家にとって花はもっとも普遍的なテーマのひとつです。その美しさを写実的にとらえ、さらに装飾化された多様な表現は、観る側にも新たな視点や発見を見せてくれます。
- **様々な作家の眼を通した多彩な花の表現に注目**
同じ植物であっても作家によってその表現はさまざま。作家の眼と心がとらえたイメージと工芸ならではの豊かな素材と技法をご鑑賞ください。
- **工芸館でお花見を**
展覧会の会期中に実際に咲いている花をモチーフにした作品を展示しています。春の散策に、桜や豊かな新緑とともに工芸の名品をお楽しみください。

展示構成

1 かたど 花を象る

春から夏にかけて、実際に咲いている花をモチーフにした作品をご紹介します。作家それぞれの技法をもとに、花の姿をどのように作品としたのか、野の花を見るようにご鑑賞ください。



No.2



No.3



No.6



No.7

2 花を想う

実際の花のイメージや作家の心象から、具象的な花の形をとらずに作品が制作されることがあります。現実の花ではなくとも花の姿を思い起こさせる作品をご紹介します。

3 花と暮らす

日常で使われる器や、花を活けるための花瓶や花器など、花を暮らしに取り入れた作品をご紹介します。もし家にこの作品があったら？と想像しながら作品をお楽しみください。国立西洋美術館からの特別出品作品もここで展示します。



No.9



No.12

● 同時開催

テーマ展示

本と暮らす

明治から昭和の時代に活躍したグラフィック・デザイナー、杉浦非水（1876-1965）の旧蔵本の一部をご紹介します。

会場：国立工芸館 芽の部屋

関連イベント

小さなお子様をお連れのご家族もみんなで一緒に参加できるイベントを実施します。詳しくは国立工芸館のホームページをご覧ください。

*国内外の状況により記載内容に変更が生じる場合があります。

記者発表会・内見会

2025年3月13日(木) 午前11時30分～午後1時 (受付開始 午前11時30分)

一般公開に先駆けて報道関係の皆さまのみの発表会および内見会を行います。参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXでご連絡ください。

次回展予告

2025年7月11日(金)～ 8月24日(日)

移転開館5周年記念 重要無形文化財指定50周年記念

喜如嘉の芭蕉布展

「沖縄の風土が生んだ最も沖縄らしい織物」といわれる芭蕉布ですが、現在、沖縄本島の大宜味村喜如嘉でその製法が伝承されるのみになっています。本展は、重要無形文化財の指定から50周年を記念して、芭蕉布の技術復興に尽力した人間国宝、故・平良敏子氏とその工房の作品を中心に、芭蕉布の歴史的な名品もあわせ展示し、その魅力を紹介します。

平良敏子
《芭蕉布 田舟花合わせ模様》
1964年
国立工芸館蔵



国立工芸館
National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>

アクセス バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より
【北鉄バス】

3番乗り場: どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

6番乗り場: 乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

8番乗り場: どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて 北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。
近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。



報道関係の方の 国立工芸館 広報事務局 (株式会社OHANA内)

お問い合わせ先 Tel:03-6869-7881 Fax:03-6869-7801 E-mail:ncm@ohanapr.co.jp

広報用画像一覧



No.1 展覧会チラシ



No.2
 十三代今泉今右衛門(善詔)
 《色鍋島薄墨石竹文鉢》1982年
 国立工芸館蔵
 撮影：エス・アンド・ティ フォト ©2019



No.3
 初代宮川香山《色入菖蒲図花瓶》
 1897年-1912年頃
 国立工芸館蔵
 撮影：アローアートワークス ©2006



No.4
 松田権六《松桜文蒔絵棗》1969年
 国立工芸館蔵
 撮影：大屋孝雄 ©2020



No.5
 寺井直次《漆器器粟模様箱》1950年
 国立工芸館蔵
 撮影：エス・アンド・ティ フォト ©2022



No.6
 リヒャルト・リーマーシュミット
 《パンチボウル》1900年頃
 国立工芸館蔵
 撮影：アローアートワークス ©2009



No.7
 川上南甫《春燈彩影》1965年頃
 国立工芸館蔵
 撮影：ニューカラー写真印刷 ©2008



No.8
 高坂雄水《銀線飾壺》1962年
 国立工芸館蔵
 撮影：森善之 ©2020



No.9
 藤沼昇《束編花籃 気》1992年
 国立工芸館蔵
 撮影：アローアートワークス ©2006



No.10
 木村雨山
 《縮緬地友禅訪問着 ばらの花》
 1967年 国立工芸館蔵 [前期展示]



No.11
 青野武市《金赤被牡丹文蓋物》
 1994年 国立工芸館蔵
 撮影：アローアートワークス©2016



No.12
 モーリス・ドニ《花束を飾った食卓(マルト・ドニと二人の娘ベルナデット、アンヌ=マリー)》1904年
 国立西洋美術館蔵
 ドミニク・モーリス・ドニ氏より寄贈

* 上記画像No.1~12を広報用にご提供いたします。
 ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。
 なお、No.12単独での掲載はできませんので、ご注意ください。
<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>



* 展覧会をご紹介いただける場合は、読者プレゼント用招待券(5組10枚)をご用意しております。
 ご希望の方は画像申請の際に「その他」欄よりお知らせください。